

事業 No. 1-6(2) 加藤敏弘研究室ゼミ合宿報告書

実施期間：2025年2月17日（月）～2月19日（水）

実施場所：太子町営研修センター

参加者：学生9名（男6名、女3名）、教員1名

目的：卒業研究題目を決定するための話し合いを繰り返し、卒業研究を提出し終えた4年生からアドバイスをもらいながら、メンバー相互の協力関係を構築する。

日程：

2/17（月）

13:30 集合
14:00～17:30 個人面談（研修室）、作業（談話室）
19:00～19:40 夕食（食堂）
20:00～22:00 交流会（食堂）
23:00 就寝

2/18（火）

6:00 起床
6:30～7:00 散歩
7:10～7:50 朝食（食堂）
8:00～12:00 個人面談（研修室）、作業（談話室）
12:30～13:30 昼食（現地）
14:00～15:00 袋田の滝見学
15:15～17:00 4年生講義&学生相互面談（研修室）
17:00～18:30 個人面談（ロビー）
19:00～22:00 夕食（バーベキュー）
23:00 就寝

2/19（水）

6:00 起床
6:30～7:00 散歩
7:00～7:30 朝食
8:00～11:00 個人面談（ロビー）、共同作業（研修室）
12:00 解散



学生の感想

・卒論を書くにあたり、どのようにテーマを決めればよいか、どのように考え始めればよいかが全く分かっていなかったため、この合宿での先生との面談や先輩方との対話を通して、卒論を書くために必要なことが単なる自分の「興味」や「関心」だけではなく、「何を明らかにしたいか」「それを研究する意義は何か」という部分であることを知ることができた。初対面の方々と3日間は少し心配だったが、個性的で面白い同期や優しく親切的な先輩方のおかげで楽しく過ごすことができた。

・まだ自分の卒業論文についてテーマを定めることができていなかったため、先輩や後輩との話し合いと、先生との面談を繰り返すことで、客観的に考えを深めることができた。後輩が入ってきたことで上級生としてどのような姿を見せるべきかの心構えや、提出までの約1年間でどのように過ごしていけばよいのかというスケジュール感覚を身に付けることができ、身が引き締まったように思う。ゼミ生との仲や団結力を深めつつ、集中して作業に取り組むことのできる合宿という貴重な機会のありがたさを改めて実感した。

